

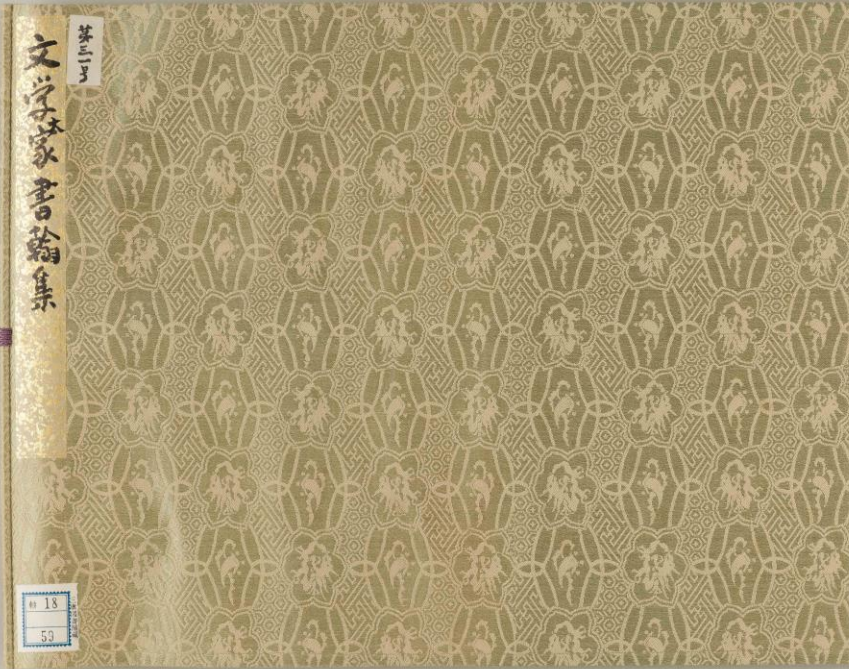


文学大家書翰集

文学大家書翰集

53







卷中目次

坪内雄藏 坪谷善四郎宛

塚原 靖 一月十六日 同

櫻庭篁卯 二月十日 同

田山花袋 八月 同

小栗風葉 三月 同

巖谷小波 大正七年 二月二日 同

江見水蔭 明治二十五年 二月九日 同

邊塚藤水 大正五年 八月廿九日 同

川村花菱 八月二十七日 同

松居松葉 十二月三日 同

伊藤銀月 大正七年 七月二十日 同

以上





卷中目次

坪内雄藏

坪谷善四郎宛

塚原

靖

一月十六日

同

惣長庭篁卯

十二月十日

同

田山花袋

丁日

同

小栗風葉

二月十日

同

巖谷小波

大正七年
二月二日

同

江見水蔭

明治三十四年
三月十九日

同

遲塚蘆水

大正七年
八月十九日

同

川村花菱

八月二十日

同

松居松葉

十二月十日

同

伊藤銀月

大正七年
十二月十日

同

以上



伊藤銀月 大正十四年
以上

伊藤善四郎様

永持徳三氏様

志

伊藤善四郎

拝啓
先般お送りした
資料は、ご承知の
通り、誠に宜し
うございまして、
誠にありがとうございます。
さて、先般お送り
した資料は、ご承
知の通り、誠に
宜しいと思われ
ます。誠にありが
とうございます。
さて、先般お送
りした資料は、ご
承知の通り、誠
に宜しいと思わ
れます。誠にありが
とうございます。
さて、先般お送
りした資料は、ご
承知の通り、誠
に宜しいと思わ
れます。誠にありが
とうございます。



評谷善四郎様

永持連一宮様
評谷善四郎様

拝読申す所存
之方存心之不安
中乞徳田守候
之辭一も感、諸
君代りて御座
指立一宮以
同いふ事を大違
可人はッ思は
極之佳候、
流の人様や
之の心も
方御座り
方人甚之御座り
向ふ方、其様
は御座り候
之御座り候
甚之善良、不
治の御座り候
は余も何卒
御座り候
乃批箋
評谷善四郎様



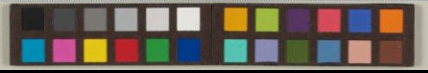
市内、牛区、山伏、何三九
坪、右、左、右、扇、杯、
出、は、大、家



漢字、
城、
印

為、
河、
依、
○、
在、
三、
有、
竹、
日、
大、
た、

今、
○、
今、
同、



水久保

大橋 善四郎 殿
坪 善四郎 殿

瑞穂村 善

市代 木一三三
甲山 録 函

甲山 録

貽

去日 江戸 城 屠

野舎 と お見 い

は 録 上 上

か 変 生 憎 は 不

正 に 七 失 神

か 今日 次 胃 腸 徒

と 上 一 一 一 申

か 申 申 申 申

道 寺 中 考 教 員

ア 一 一 一 一 一 死

廣 北 上 居 (北 北 一 一)



道平 中野教員
フシの口に附き此死
廣我上吾(北むま
此地方に云らるし
と有) 猶常人
小希望少す取致下
反は多忙中甚
に迷惑七次有に有
之と云ふ何卒一研
此方の以候一筋
云云に云 小病
取こもるしくは安
福卜云 先子畏息
は延見は引立致下
云は云上と云
小一

甲山生

坪治老兄
此の

此の
坪治老兄の書地
五



大橋 善四郎

結核病

甲山録

甲山

聆

出戸城屠

駭余と亦見い

は欽上急上

かま生憎は不

正に失神し

か今日次胃腸

とさうか、は

か方か中を

道平、中寺

アとわ口に

慶長上宿(北

地亦にうら

と布) 猿

小希望は

は迷熟七

之上、何

た力は

病に

飯、

河下、

は延見

は

小

一

甲山

坪冷老足

甲山

此は善徳の番地
坪久右善徳印
印

印

平日 山本茂

海軍長官陸軍大臣の通令に
下野野守府料の儀を以て
之は陸軍大臣の通令に
本府に於て之を以て
奉じて依て陸軍大臣の通令に
通令の旨に依りて之を以て
是の何れに依りて之を以て
是の何れに依りて之を以て
是の何れに依りて之を以て

平日 山本茂

坪久右

年込正北山代町
坪久右善徳印
印



生息を養ふ所の番地 田

坪子右善信印標

印

辛日 山本風雲

海皇古及海皇古と云ふは
下海皇古と存料し候事は何事
之様存料事と云ふは自
本海皇古と云ふは自
事とて候存料と云ふは
通路置と云ふは自
是は何事の法候事と云ふは
是は一右様存料事と云ふは
是は一右様存料事と云ふは

辛日 山本風雲

坪子右



年込区北山代町
坪久美里林
雄



東京市芝區高輪南町五三
巖谷季雄
電話高輪三二五
大正三三

中央銀行
支店
東京市芝區高輪南町五三
巖谷季雄
電話高輪三二五



東京市日在橋区
本町 博文館
坪谷水哉様

水哉様

三下

人觀

肝閣

宗也

河之

其

其

其

其

其

其

平山正北山代所
坪久吉
[Red Seal]

三十三
東京市芝区高輪町五三
巖谷季雄
[Red Seal]

中世の人心
は是の世に
ありしや
今も
あらず
や
[Illegible cursive text]

平山正北
[Illegible signature]



日本橋の日本所
博文館
押石善四郎様

下谷已竹町
下谷善四郎様
お返し

拜啟

左様御返事

承り申上

此年の中は色々様

事浮の言ふ所下

立山の舞を西へ

我々も色々様

御返事承り申上

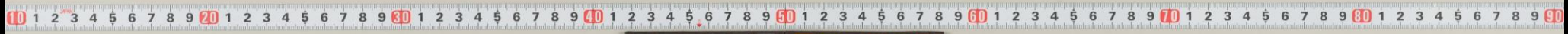
心算来御返り

久々海へは戻り

此の二年は色々様

御返事承り申上

難大陽の御返り



日本橋区本所
博文館
押右善四平様

下谷区竹町一丁目
下谷博文館
押右善四平様

拝啓

左様御座います

はなを明かして

故年の中は色々様

事浮の言も出て

三山の静さ西へ

却て一歩を歩

海濱の五反田へ

陰のついでに

心算来湖の行

久々の海へは

孫の平林左衛門

仰と云うは書

類太陽の輝

懐しの時

運流の

佐原

方角

謝り

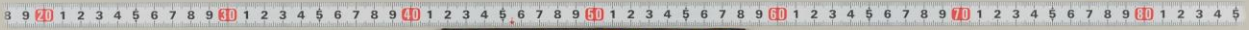
心

7月

厚名

押右善四平様

行





牛込区北町山伏町
北丸屋地
坪谷水哉先生
九

一
高橋水哉
田村龍孝

中平は非難な
りありて心はゆるゆると
かたまりたまふ事あり
以て之りやんか
以てんをわらひて今も
以て座敷をいれぬ家
の事ありて仲あり
是れもいれぬ事あり
之れもいれぬ事あり
乃わいとい見ぬ事
あり

いれぬ事あり
山村生

坪谷先生



いふれ下
山生
呼名之生

平橋白大字之
浮為水式先
江東南志村之

十二月
松本
松本

解皇道... 松本
松本
松本

東市... 松本
松本
松本



正格の文字



浮舟の式先

江東南志

十三年

松本

松本

解道... 松本... 水...





[Blank page]

No. 8

何れゆへに...
 (一) 吾人の...
 指し示す...
 是れ...
 土曜二十日
 伊藤 隆平

No. 9

此の...
 何れ...
 下...
 同...
 又...
 同...
 又...
 是...
 此...

